

8. 地域の特性と防犯対策

1 まちの特徴

■中心市街地

各市町村において「顔」ともいうべき、古くからの商業、業務など様々な機能をし、人々の交流の場となっている地域。古くからの市街地があって、コミュニティが機能している地域も多い。しかし、定住性の低い賃貸住宅が多い場合は、コミュニティの形成が困難な場合もある。

鉄道駅などの交通拠点や大規模商業店舗を含む場合が多く、不特定多数の人が利用するため、匿名性が高くなりやすい。

■新興住宅地

中心市街地の近郊に位置し、大規模開発や区画整理により、住宅や団地が造成された地域。地域区に低・未利用地が残されており、その周辺は照明が不十分になりやすい。さらに、街開きから年月が経つと、樹木が成長して照明を覆ったり、見通しを悪くしている場合がある。中心市街地と比較すると昼間人口が少なく、昼間の人目が少ないこととあいまって、侵入盗などの犯罪が発生する危険が大きくなるおそれがある。コミュニティについても、地区の大半が新住民であることから、活発な活動が見られないところがある。

■農山村地

住宅、集落が点在する、周辺に農地や山林が広がっている地域。自治会等がしっかりしていて、昔から地域のつながりが強い地域が多い。またボランティア活動に対して深い理解を示している人も多い。このような地域は、長年、犯罪が極めて少ないことが続いている。その理由としては、地域のつながりが強いことであるが、住民はあまりそのような意識をもっていないために、一見、防犯に対する意識が低いように見受けられる。しかし「地域のつながりが強いこと＝防犯」を無意識の内にしっかりと根付かせている地域である。

(出典：「栃木県自主防犯団体設立活動ガイド」より)

8 地域の特性と防犯対策

地域特性の3つの要素

地域ごとに異なる街並、文化などの特徴を地域特性とよんでいます。子どもの防犯に関する本研究では、地域特性を、次の3つに大別して捉えています。

1. 環境的な特徴

- ・新しい住民の入居が多い新興住宅地
- ・駅や大型商業施設があり、人の行きかう都市部
- ・畑や田んぼが広がり、住宅の点在する農山村部など



2. 統計的な特徴

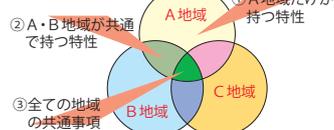
- ・人口や人口密度 ・子どもの人数 ・犯罪の発生件数
- ・声かけ事案の発生件数など

3. 地域の状況

- ・地域の歴史や文化 ・住民同士のつながり ・地域活動の有無など

環境的な特徴は、都市部、住宅街、農山村部など、地形や街並といった地域のハード的な特徴をいいます。統計的な特徴とは、警察などが発表しているデータから見える特徴です。数値として扱えるため、客観的な分析が行え、違った視点から地域の特徴を掴むことができます。地域の状況は、住民同士の繋がりや強さなど、ソフト的な特徴といえます。普段はあまり意識していないことも多いと思いますが、整理をすることで、地域の傾向を掴むことができます。

地域特性のイメージ



図のように地域の特性は、
①その地域だけが持つ独自のもの
②似たような地域同士が持つもの
③全ての地域で共通しているものに分けられると考えられます。

地域の特徴を生かした取り組みを実践しよう

2 特性に応じた活動

地域特性に応じて効率的に活動を展開している地域もあります。

事例 尼崎市立大庄小学校

尼崎市立大庄小学校は、学区内に競艇場と駅を有している。そのため、地域外からの人の流入が多い。競艇場の関係者とも定期的なミーティングを行い、競艇場の警備員と連携をしながらの見守り活動を行っている。

事例 丹波市立和田小学校

山間部に位置する和田小学校は広い校区を有している。広い校区で効率的に見守り活動を行うため、青色パトロール車を使い、通学路の巡回を行っている。

上の事例のように、地域に合った活動を行うことで活動を実施する側への負担が軽減し、より効率的に活動を推進していくことができる。

また、防犯パトロールのように全国各地で行われている活動も、実施人数や回数、巡回方法など、有効な手段は地域ごとに違いが出てくると考えることができる。

同様に、人材発掘や育成においても、地域の文化や特色に応じたイベントを通じて行っていくことが有効であり、自身の地域の特徴をつかみ、地域特性に応じた取り組みを行うことが大切であるといえる。

- 規準表 (11b) 地域の防犯対策や施策・事業についての現状を理解している。
(12a) 自分の住んでいる地域の特性を把握している。
(13a) 地域の課題や問題の解決に積極的に取り組むことができる。
(45a) 地域の特性に応じた環境改善について計画し、取り組むことができる。
- ねらい ①地域の特性に応じた防犯対策について説明できる。
 ①住宅街、商店街、学校などのおおよその位置を把握している。
 ②地域の人口や世帯数、小学校児童数等を把握している。
 ①地域の課題や問題の発見のために協力することができる。
 ②地域の課題や問題に対する取り組みに参加することができる。
 ①不審者が近寄りづらい環境作りに取り組むことができる。
 ②地域の環境浄化と防犯との関係性（割れ窓理論・犯罪機会論など）について説明できる。

8

地域特性の問題点や課題

2

一方、地域の持つ特性ごとに抱える問題も様々です。

例えば、「新興住宅地では新たに転居してきた住民が多いため、自治会や町内会といった地域のコミュニティの活動が弱く、活動を行うことができない」、「都市部では商店組合などを中心とした地域コミュニティが形成されているが、団体数が多いため防犯活動において団体同士の連携がうまくとれないことがある」、「農山村部では住民同士の繋がりが強く地域活動も活発だが、犯罪が少ないため防犯活動に対して必要性が見いだせず、活動が継続しない」といったようなケースがあげられます。

こうした問題を解決する方法の一つとして、他の様々な地域の事例を参考にしてみよう。事例の中には自分の地域と同じような特性を持った地域もあるはず。そうした地域の活動を参考にして、自分の地域ではどのような活動を推進していけばよいか考えてみるとよいでしょう。

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 地域の特性)

※ビデオを見て、地域特性についてまとめてみましょう。

■つかんでおこう！

防犯特性分析システムを利用し、自分の地域の特性を見てみましょう。

Column

日地域特性を理解するというのは、自分が普段生活している地域、普段とは違った目線から見てみるということでもあります。例えば、隣の地域団体と交流の機会を設けるなどして、お互いの地域の活動や問題点について意見を交換してみましょう。自分の地域を客観的にみることにより意外な長所や、気がつかなかった問題点を知ることができるかもしれません。